

チャレンジ！！オープンガバナンス 2016 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注)	No.	タイトル	自治体名
	(事務局用)	三田・学生のコミュニティ拠点づくり	三田市
アイデア名 (公開)	三田まちなかラウンジで三田を学生の都に		

(注) 地域課題タイトルは、COG2016 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	サンダーブラザーズ		
チーム属性 (公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input checked="" type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
代表者情報	氏名 (公開)	築出明紀	

※ 公開条件について

次ページ以降の「2. アイデアの説明」でご記入いただく内容は、内容を確認した上で、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

(注意書き)

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2016_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2016 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2016@pp.u-tokyo.ac.jp

<公開非公開など>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)

4. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

5. 「アイデアの説明」中に、文章、写真、図画などで応募したチーム以外に知的所有権が属する箇所がある場合には、法令に従った引用や知的所有権者の許諾を得るなどをした旨をそれぞれ注として書いてください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。

<チームメンバー名簿>

6. チームメンバーは別紙のエクセルファイルに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は COG 事務局からは非公開です。詳細は別紙をご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

データや資料を活用して課題の具体化とその解決につながるアイデア（公共サービス）のストーリーを語ってください。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれがする、何をやる、どこでする、いつする、どのようにするものなのかを考えて、各要素を入れて内容を描きストーリーを整理していくとよいでしょう。以下の欄内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

三田市内にある飲食店を学生や市民（NPO やコミュニティに所属している人を中心に）時間制で学生拠点を作り、運営をする。

利便性等を考慮して駅周辺の店に時間限定で学生拠点として設定する。例）毎週月曜 18 時～等）

時間内であれば、店内は学生が自由に使うことが出来るスペースを設ける。一方、飲食店は店舗の一部を学生に貸している間でも通常どおり営業をする。店側のメリットは学生に店を知ってもらうことが出来る。学生側のメリットは気軽に入店することが出来、市民とのコミュニケーションの場になる。

期待される効果は 2 つある。

1 つ目は、集まった学生同士が各々でチームを作り、まちの活性化につながることである。

三田市では現在、学生同士が集まる場所が非常に限られている。その問題を我々の提案で解決することがかとうである。

2 つ目は学生のニーズに合ったシステムを作ることで結果的に学生団体が増えるということである。

三田市で活動している学生団体の数は少なく学生の視点で、学生のニーズを満たす活動をしている団体が少ない。学生団体が増えれば、学生が快適な環境で過ごしやすくなり、また学生の視点から三田市を盛り上げることがかとうである。

(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアにするのか）を、それをサポートする数値データ（実績、統計やアンケートなど数字であらわされるもの）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつご記入ください。数値データや証拠は出所を明らかにしてください。以下の2ページの欄内におさまるようお願いします。

三田市が市内の大学や専門学校及び三田市内在住の他市学校に通う学生対象に平成28年6月20日～同年10月28日の期間で行った意識調査をもとに、本アイデアの論拠を述べる。

当調査によると、現状として学生が考える「まちづくりを進めるために必要なこと」として、表1の結果が得られた。表1によると、回答した学生の半分は、学生が集まり主体的に活動できる場所が必要だと考えていると読み取ることができる。また、高い割合を占める2位～4位に焦点を当てると、学生と三田市に暮らす住民とのイベントや交流といった、学生が集まる拠点・まちに関わりきつかけとなる場所が強く求められていることが分かる。

しかし、そういった交流が生まれる場所は今のところほぼ存在していないと考えられる。理由として、同調査の「（学生が）平日、授業以外の時間の過ごす場所について」によると、「その他市外」が34.5%最も多く、次に「三田市内の学校及びその周辺」が24.7%と続いており、学生は日常生活において学校と家の往復や、市外で時間を費やすことが多く、三田市内で授業時間外を過ごすことはあまりないと考えられるためである（表2）。実際、学生の多くは学校に居る間は課題やサークル活動等をしており、学校の周辺で過ごすというより学校の中に居ることが圧倒的に多い。

続いて、今回設置する学生拠点がどのような場所であるべきかを先行事例を元に考察する。

【先行事例1】

まず富山市にある株式会社まちづくりとやまが運営する、「富山まちなか研究室 MAG.net」である。まちなか研究室は、学生がまちなかで活動する拠点として平成23年に設置され、商店街・企業・来街者など地域と学生とを繋ぎ、中心市街地での活躍の場を作ることによって若者の来街増加をねらいとしている。利用者の使用方法としては以下のようなものが挙げられている。

語り場：共通の趣味を語りあう場として・商店街の方との交流の場として・学生団体と

まちづくり関連団体の交流の場として・就職等についての相の場として

たまり場：学生団体やまちづくり関連団体の活動拠点として・サークルの活動拠点として・

情報のたまり場として（まちなかのアルバイト情報やイベント情報を提供）

演じ場：研究成果の発表の場として・ワークショップ開催の場として・サークル等の発表の場として

（音楽やアートの発表、展示など）

	回答数	割合
学生が自由に集まり、使用できる場所	298	50.1%
社会人や地域の人々と交流できる機会	185	31.1%
学生が主体となって取り組むイベント等	172	28.9%
イベントや様々な地域活動の情報	161	27.1%
企業や様々な団体とのマッチング	131	22.0%
学生が伝えたい情報を発信できる機会	74	12.4%
学生による起業	42	7.1%
キャリア支援等の相談窓口	22	3.7%
その他	19	3.2%
無回答	32	5.4%

表1 まちづくりを進めるために必要なこと

	回答数	割合
三田市内の学校及びその周辺	147	24.7%
三田駅周辺	89	15.0%
その他三田市内	57	9.6%
神戸市北区（アウトレット、イオンモール等）	70	11.8%
その他市外	205	34.5%
無回答	11	1.8%
複数回答	16	2.7%

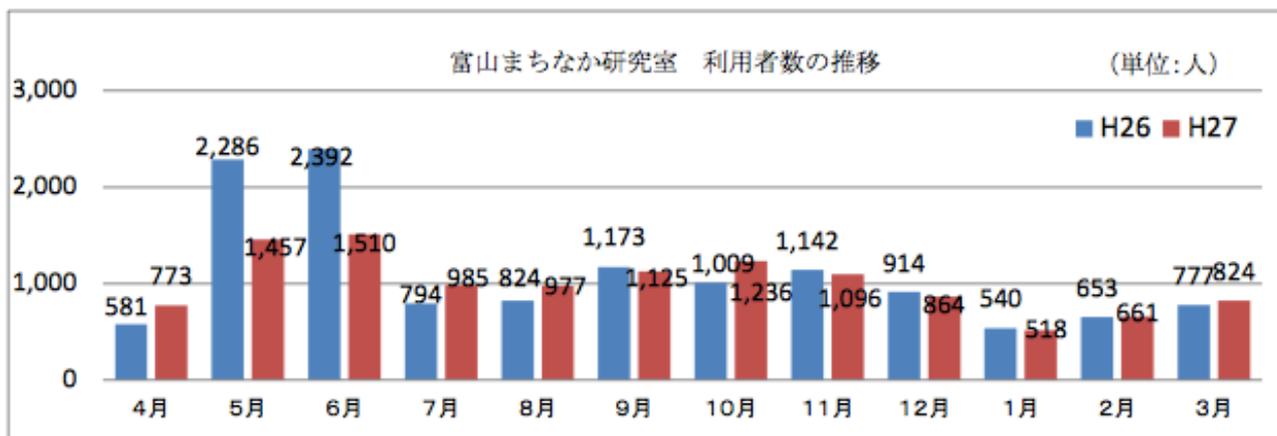
表2 平日、授業以外の時間の過ごす場所について

学び場：ゼミや中心市街地の調査拠点として・まちづくりに関するセミナーの場として・

まちなかでの自主イベント等の企画の場として

さらに、「街なかメイクアップサポーター」という Magnet を拠点とした学生団体を立ち上げる事で、学生が主体的に富山のまちづくりに関わる仕組みづくりが行われている。このように場の提供だけでなく内部でのイベントを活発に行った結果、平成 27 年には 12000 人以上の利用者が使用している。

<株式会社まちづくりとやま「平成 27 年度実績報告」<http://www.mdtoyama.com/?tid=100258> より>



【先行事例 2】

2つ目に、大正 5 年建築の金沢市指定保存建造物である旧佐野家住宅を改修して造られた「金沢学生のまちなか市民交流館」を事例として挙げる。学生と市民との交流が図られる学生の活動拠点施設として整備され、平成 24 年に会館した。管理運用は金沢市（学識者、大学、NPO、地元住民、学生による運営会議を組織）が行っている。賑わいの創出やまちなかの活性化を図るため、学生等の活動拠点として整備された施設である。こちらもソフト施策としての取組が多く、コーディネーターによるまちづくり活動に取組む学生と社会人の繋がり作りのほか、新たな活動の創発促進、学生団体の継続や発展を支援する交流会や社会起業のあり方を考えるワークショップの開催などが行われている。

来館者数は、平成 25 年度は約 2 万 9 千人、平成 26 年度は 12 月までで約 3 万 5 千人。当初見込んでいた年間の目標の 2 万 5 千人を大幅に超え、まちなかの賑わいを創出している。交流館を拠点として活動する学生団体数は、平成 26 年度 37 団体に達し、初年度の 10 団体から大幅に増え、学生によるまちづくり活動が促進していることがわかる。

<国土交通省北陸地方整備局「北陸発 まちなか再生・まちなか居住に向けた取組事例」

<http://www.hrr.mlit.go.jp/kensei/machinaka/pdfdata/02jirei.pdf> より>

【先行事例 3】

最後に私たちが参考にした事例は公共施設ではなく、「SMC カフェ」という個人経営の飲食店である。関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスの正門の前に位置しているこのカフェでは、ドリンクバーや軽食を求めて多くの学生が授業外の時間帯に利用しているが、50坪の店内には音響設備やランドピアノなど多目的に使用できる設備が揃っており、演奏会、展示会などのイベントにもよく使用されている。私たちはこの飲食店には、学生が日常的に利用しやすいオープンで居心地の良い環境が存在しているため、地域住民と学生の交流拠点として効果的に機能していると考えた。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現にいたるプロセスとマイルストーン等、アイデア実現までの大まかな流れについて、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

アイデアを実現する主体

主体として、二つのタイプが挙げられる。

二つのタイプの運営主体は異なるものとする。

- さんだ町中ラウンジ拠点の運営主体：三田市内の学校に通学する学生・三田市民（NPO やコミュニティ団体に所属している人。
拠点の運営をする上で、継続性は重要であり、そのために主体を支える団体が必要であり、そのために行政職員や地元企業がバックアップとしての役割を担うこと。
- 拠点で行われるイベントの運営主体：学校や市民センターなどに登録している、市内で活躍している既存の学生団体や市民団体。

アイデア実現の流れ

1.(2)の三田の学生が溜まる場所の集計より、三田市内の学校に通う学生の溜まり場所として、学校もしくは周辺とその他市外が、約 6 割を占めている。このことは、三田市民との交流が少ないことであること、学校に通学するために三田に行っているだけで、三田に対しての愛着が希薄であるのではないかと分析した。

→上記のことから、三田市民と交流できる、あるいは、三田市内の学生が交流できる場所を設ける。

拠点の場所設定として、(2)のデータより、駅周辺の場所を溜まり場としている割合が高いことから、駅周辺の飲食店を拠点として定めて、店舗に協力を依頼する。

2.依頼が承諾されれば、学生拠点に必要なものをハード面・ソフト面に分けて、拠点を整備する。

3.拠点運営主体が、SNS、ネット、広報誌などを通じて、拠点の存在を外部に認知してもらえると同時に、拠点で、イベントを行ってもらえる団体の募集をする広報活動を行う必要がある。

4.広報活動を通じて、イベントを運営する団体が決まると、イベントに参加するプレイヤーが必要となる。参加者を集うための募集は、イベント運営団体が行っても良いが、拠点運営主体が行った方が、負担を軽減できる。

5.参加者が集まるとイベントを開催する、

6.上記の流れが拠点の認知度の向上や拠点において、イベントを主催する団体の増加につながる。

7.イベントを主催する団体が増加して、拠点のキャパオーバーを防ぐために、複数の拠点を設ける必要がある。ニーズによっては空き店舗などの活用も検討する。

8.最終段階として、市役所内に拠点を構えて、大々的な活動にしていきたい。

(4) そのほか（公開）

アイデアのアピールポイントや、アイデア実現に当たっての制約があればそれとその当面の解決方法、さらに将来の発展可能性（例えば「将来的に xx という制約をクリアできれば、追加で○○ということが実現できる」など）について、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。